

発行日／平成 27 年 5 月 1 日

発行所／公益社団法人大阪府建築士会

540-0012 大阪府中央区谷町 3-1-17

岡本会長の主な動静

- 3/18 正副会長会議、理事会
- 18 長野県建築士会と交流協定締結
- 25 建築協会の御堂筋コンクール表彰式
- 4/17 運営委員会
- 22 正副会長会議、理事会
- 24 積算協会総会後の会員交流会

理事会

長野県建築士会と 交流協定を締結



3月18日の理事会において、長野県建築士会から関会長・有賀副会長・飯島支部長・安藤事務局長が来阪されて、交流協定を締結しました。



協定には、両会の建築や歴史に係る文化交流、団体運営・活動に係る共通課題の検討などを相互訪問の中で構築していくことが明記されています。

理事会のあと、長野役員の方々を囲んで懇談のひと時を過ごし、交流の一步が始まりました。

運営委員会

H27年度の運営体制

本年度は、理事数を昨年度の38名から43名に増員(総会選任)し、本会の活動を強化します。

そして、新理事候補者を含めた運営、研修、事業、建築表彰、建築情報、社会貢献の6委員会及び、18の分科会を担当する理事の配置案が3月度理事会で承認され、新体制での委員会活動が4月からスタートしています。

特に社会貢献委員会では、10の分科会を「業務支援」と「地域支援」に区分し、それぞれに委員長を配置して分科会活動の強化を行い、安心・安全で魅力ある地域のまちづくりに向けて、市町村に地元建築士が協力して、地域が抱える様々な課題解決を図るなど、地域に根ざした活動に力を入れて行きます。

運営委員会

中嶋節子京都大学教授を 副会長候補者に推薦

中 伊佐氏が今期で副会長を退任されるに伴い、3月度理事会において、京都大学大学院人間・環境学研究科教授の中嶋 節子氏を副会長候補者として総会に諮ることを決議しました。中嶋氏は現在、本会が府・市等と主催する「大阪まちなみ賞」の審査委員をはじめ、国交省近畿圏広域地方計画有識者会議委員や大阪府建築士審査会委員など多数の建築関係の公職に就かれておられます。

運営委員会

二級・木造建築士試験の 申込状況

平成 27 年の大阪における二級・木造建築士試験申込の受付が4月13日(月)に終了しました。申込者数は、インターネット・郵送を含めて、二級学科が1,822名(1,855名)、二級設計製図が311名(283名)、木造学科が73名(65名)、木造設計製図が3名(7名)でした。

()は昨年度。

社会貢献委員会

空き家相談窓口の開設

大阪府内の空き家数は約68万戸(平成25年)と7戸に1戸が空き家であり、年々増加しています。空き家の増加は、まち

の防犯性・防災性の低下、都市景観の悪化、地域コミュニティの衰退などを招くことから、社会問題化しつつあります。本会は、府を事務局として建築や不動産等の団体から構成される「大阪の住まい活性化フォーラム」の「空き家相談窓口」に登録しました。

窓口では、空き家の維持管理や利活用などの相談に応じるとともに、インスペクション、ヘリテージ、耐震、住宅仲間の分科会と連携して、空き家の現況調査やリフォームなどの実務的な支援を行ないます。

社会貢献委員会

「古民家の庭再生事業」に 助成決定

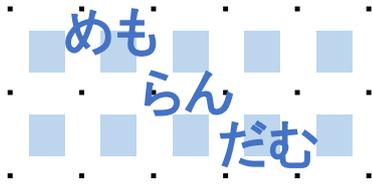
本会大阪地域貢献活動センターの、平成27年度活動助は、NPO法人吹田歴史文化まちづくり協会が行なう「古民家の庭再生事業」に決まりました。この事業は、江戸時代の古民家を再生した吹田歴史文化まちづくりセンター(浜屋敷)を管理・運営する当法人が、浜屋敷の庭園を5か年計画で再生するもので、地域の歴史的保全、景観意識の高揚、さらにはコミュニティの醸成にもつながることが期待され、10万円の助成金の交付を審査委員会で決定しました。

社会貢献委員会

津波・浸水対策研究会の活動

被災支援分科会では、津波・浸水対策研究会を発足させて、南海トラフ大地震による津波対策や、近年、甚大化傾向にある集中豪雨、高潮等による浸水被害の対策について取り組んでいます。

研究会では、津波避難計画作成、構造要件を満足する津波避難ビルの指定、地下空間の安全対策、住民の防災意識啓発等について、自治体に対する支援を念頭に、積極的に活動を行ないます。



歴史的建造物修復のためのヘリテージマネージャー「植物性修復資材研修講座」

実施主体 NPO法人文化財保存ネットワーク河内長野 後援 大阪府建築士会 など
日 程 平成27年2月27日～3月1日
会 場 天野山金剛寺

昇 勇(理事・ヘリテージ部会担当)

大阪府河内長野市の金剛寺でヘリテージマネージャーのための植物性修復資材研修講座が開催されました。金剛寺は平成21年より9年間をかけて平成大修理が行われています。大阪府建築士会からはヘリテージマネージャー育成講座の受講生および修了生のべ50名ほどが講座に参加されました。見学会1日目は金剛寺金堂修理現場の見学と多宝塔の未公開壁画の特別公開です。2日目は安藤邦廣先生(筑波大学名誉教授)による「茅葺民家を活かす」の講演と実際の山での檜皮採取の実演があ

りました。3日目は生憎の雨でしたが鳴海祥博先生(元和歌山県文化財センター)による「伝統建造物と文化財修復資材の現状と今後」というテーマで歴史的建造物の修復の目的と課題についての講義と実際の檜皮葺の職人の実演と体験もさせて頂きました。檜皮を竹釘で専用の金槌で打ち込む体験には皆さん苦闘されていました。槍鉋での鉋がけも初めての経験です。大阪府建築士会では今年度もヘリテージマネージャー育成講座を開催予定です。詳細は月末頃ホームページで発表

します。また修了生を中心に大阪府ヘリテージマネージャー協議会も発足しました。他団体とも協力しながら継続的な研修と歴史文化遺産の保全、活用に修了生の益々の活躍を期待しましょう。



建築技術講習会「外装タイルの剥落の課題と対策」

大阪府知事指定講習

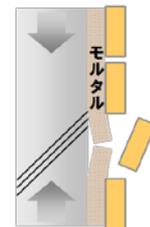
日 程 平成27年3月6日
会 場 大阪府建築健保会館

萬川 幹夫(理事・研修委員会担当)

会場は、ほぼ満席でした。外装タイルに対する関心の高さに驚きました。江戸時代後期の1856年の長崎で、オランダ人によって伝えられた煉瓦造りから始まったタイルの歴史は、製造技術の進歩や施工方法の改良などを経て現在に至っています。釉薬のかかったタイルが意外と後発である事実は驚きでした。またF.L.ライト設計の旧帝国ホテルのスクラッチタイルやテラコッタ等の製作に専用の工場が常滑に設立され、現在のLIXIL(旧伊奈製陶)として現存していることも意外でした。施工方法は、圧着張りから始まり改良積み上げ張り、改良圧着張り、マスク張りそして有機系接着剤張りへと変遷しています。外壁仕上げとしては、施工技術が日々大きく進歩する中で、これほどまでにヒューマンな仕事は他にないと思いま

す。それが故に、事故や不具合も多く起こる部位でもあるのでしょう。モルタルの練り方、塗り方、タイルの貼り付け具合で、その接着持続性が大きく変化するのも職人技ならではの。同時に設計者は、その特性を理解し、オープンタイムの管理を含め適切な伸縮目地を設ける等、壁面の温熱環境に見合った施工方法を検討しなければなりません。PCパネル打ち込みタイルにも剥落などの危険をはらんでいるのには、些か驚きました。裏足の改良や、タイル厚の変更などメーカー独自の改良が続けられていることも教えて頂きました。多くの課題をクリアする新しい『トータルフレックス工法』の紹介もして頂いたが、やはり職人の技術に負うところが多い事変わりなく、ある種の安らぎのよ

うなものを感じました。建物が益々高層化して行く中で、決して起こってはならない事故を防ぐには、設計者の知識の蓄積のみならず、人とのコミュニケーションの中から最善の方法を選択し、確実に実行する管理が不可欠であると実感しました。建物を印象付ける『重量感』『高級感』等の言葉で表される、ヒューマンな仕上げ材と上手く付き合っていくヒントをたくさん戴けた講習会でした。



セメントモルタル張り
下地の変形にモルタルが追従しない